

4. 各報告書の詳細

分析結果報告書確認表示用の画面はA4用紙印刷を考慮し、小さめにレイアウトされています。

入力方法の共通的な部分は、前記の8ページの「各分析結果報告書の共通事項」として、「分析主担当者」、「分析主担当者の経験年数」、「分析主担当者の実績（年間の分析試料数）」、「分析(主)担当者以外の分析結果の確認」の入力方法を示しています。

また、以下に共通的な事項（注意点等）を示します。

○分析経験等

分析経験については、分析主担当者による分析経験について、該当するものを選択してください。

○分析条件等

適用している分析方法や分析機器等によっては、記入が不要な部分、記入が難しい部分等があると考えられますので、そのような場合には記入する必要はありません。

複数回測定（併行測定）では、1回目の分析条件を記入します。ただし、試料の指示値（吸光度等）等については、測定回数分を記入する場合があります。

○指示値

指示値としては、吸光度、ピーク高さ、ピーク面積等があります。記入にあたっては、いずれの値も可能ですが、内標準法の場合は、対象物質及び内標準物質の比では無く、各々のピーク面積等をご記入下さい。

指示値の記入欄には、検量線の最高・最低濃度、試料、空試験があり、記入にあたっては同じ種類（単位）のものとしてください。

○分析結果（数値の丸め方）

分析結果については、有効数字3桁としています。数値の丸め方はJIS Z 8401に従ってください。

分析結果は必須項目です。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件でエラーメッセージが表示され、確定できませんので、ご注意ください（前記3-9参照）。

○分析方法

分析方法も必須項目です。選択されていないとエラーメッセージが表示され、確定できませんので、ご注意ください（前記3-9参照）。

○報告書の確定

ウェブサイトでは期限内に報告書の確定を必ず行ってください（「報告書一覧表」から確定したい「報告書」を選択して、「報告書確定」をクリックしてください）。「報告書確定解除」を行った場合も、修正等の後には必ず「報告書確定」を行ってください。詳細は、前記3-8を参照ください。

4-1 分析結果報告書 [1]

表 4-1 水質試料 1 (COD) (分析結果報告書 [1])

<分析結果>	
分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/L。試料 1Lあたりの mg として記入。 下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字 3 桁で報告値を記入する。 検出下限値未満であった場合、ND と記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧()をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字 1

	桁で記入する。
Z-スコアの報告書資料編への記載	コンボボックスより選択
3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の滴定量については、3回分を記入する。	
<分析方法等>	
試料受取日	数値(半角)入力。例：2020/7/28
分析開始月日	数値(半角)入力。例：2020/7/28
分析終了月日	数値(半角)入力。例：2020/7/28
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
自動測定装置のメーカー	具体的に記入
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<測定条件等>	
試料希釈率	数値(半角)入力
試料量	数値(半角)入力。単位：mL。
予備試験（複数回答可）	コンボボックスより選択（複数選択可）。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
銀塩の使用 種類 添加量 添加後のかく 拌	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mL 又は g。 コンボボックスより選択し、()内に回数(単位：回/分)、又は時間(単位：分)を記入。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
水浴中の温度	数値(半角)入力。単位：℃
標準原液 (過マンガン酸カリウム溶液)	コンボボックスより選択。購入した場合には、()内にメーカー名と濃度(単位：mmol/L)を記入。
5mmol/L 過マンガン酸カリウムのファクター	数値(半角)入力。
5mmol/L 過マンガン酸カリウムの滴定量 試料の滴定量 空試験の滴定量	数値(半角)入力。単位：mL。3回分記入。 数値(半角)入力。単位：mL。
<試料の保存状況>	
保存状況 保存方法等 試料の保存処理 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「行った」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：℃
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	200文字以内で簡潔に記入する。
計算式	200文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。 例(COD) 分析結果(mg/L) = (試料の滴定値 mL - 空試験の滴定値 mL) × 過マンガン酸カリウム溶液のファクター × 1000 ÷ 試料量 mL × 0.2

4-2 分析結果報告書 [2]

表 4-2 模擬排水試料 (BOD) (分析結果報告書 [2])

<分析結果>	
分析結果	数値(半角)入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。 下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧()をつけ JIS Z 8401によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。

Z-スコアの報告書資料編への記載	コンボボックスより選択
3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3回分を記入する。	
<分析方法等>	
試料受取日	数値(半角)入力。例：2020/7/28
分析開始月日	数値(半角)入力。例：2020/7/28
分析終了月日	数値(半角)入力。例：2020/7/28
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
自動測定装置のメーカー	具体的に記入
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<希釈試料の調製に用いた希釈水>	
植種の有無(希釈水の種類等)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
植種希釈水を使用した場合の調製に用いた植種液の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
市販品の植種菌製剤を用いた植種液の調製 植種菌製剤の種類 使用した水 植種菌剤1カプセルに対する水の量(mL)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。
混合液のばっ気・攪はん等	「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。()内にばっ気・攪はん時間を数値(半角)入力。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
植種希釈水の調製までの時間 その他、植種希釈水の調製にあたって留意した点	ばっ気・攪はん等の処理後の時間を数値(半角)入力。 200文字以内で簡潔に記入する。
植種液のBOD	コンボボックスより選択。()内には数値(半角)入力。
植種希釈水の調製 (希釈水への植種液の添加量)	()内には数値(半角)入力。単位：mL。
植種希釈水の活性	コンボボックスより選択。()内には数値(半角)入力。単位：BOD-mg/L。
<試料の前処理>	
前処理	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<段階的な希釈試料の調製>	
調製した希釈試料の段階の数	数値(半角)入力。
希釈の方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
硝化抑制	コンボボックスより選択。「行う」を選んだ場合には、具体的に記入。
<培養の方法>	
培養瓶の容量	数値(半角)入力。単位：mL。
恒温(20±1℃)の方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<溶存酸素(DO)の測定>	
測定方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
3.又は4.の方法を使用した場合について 飽和溶存酸素の表の修正および 気圧(高度)の導入に係る補正等 塩分補正 試料測定前の機器校正	コンボボックスより選択。「1.実施している」を選択した場合には、「その方法」について、()内に具体的に記入。 コンボボックスより選択。「1.実施している」を選択した場合には、()内の方法をコンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「1.実施している」を選択した場合には、()内の方法をコンボボックスより選択。
<溶存酸素(DO)の測定：滴定法(よう素滴定法又はミラー変法)>	
P	数値(半角)入力。Pは希釈試料中の試料の占める割合(試料/希釈試料)を示す(P値が大きい順に記入する)。例えば、3段階希釈では、1段階：

試料量 滴定量	P=0.04 (25 倍希釈)、2 段階：P=0.02 (50 倍希釈)、3 段階：P=0.01 (100 倍希釈) の順のように記入する。 数値 (半角) 入力。単位：mL。 数値 (半角) 入力。単位：mL。よう素滴定法では 25mmol/L チオ硫酸ナトリウム溶液の滴定量 (mL)、ミラー変法では硫酸アンモニウム鉄 (II) 溶液の滴定量 (mL) を記入する。
<測定記録>1 回目～3 回目	
P 溶存酸素 溶存酸素消費率 BOD の値	<溶存酸素の測定：滴定法>と同じ。 数値 (半角) 入力。単位：mg/L。 数値 (半角) 入力。単位：%。 溶存酸素の消費率 (%) は $(D1 - D2) / D1 \times 100$ として算出する。 数値 (半角) 入力。単位：mg/L。BOD の算出に用いた希釈試料 (希釈段階) に該当する欄に値を記入し、他は空欄とする。
<試料の保存状況>	
保存状況 処理	保存方法等 試料の保存 保存時間 保存温度 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「行った」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値 (半角) 入力。単位：時間。 数値 (半角) 入力。単位：℃
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	200 文字以内で簡潔に記入する。
計算式	200 文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料 (COD) を参照する。

4-3 分析結果報告書 [3]

表 4-3 模擬排水試料 (全窒素) (分析結果報告書 [3])

<分析結果>	
分析結果	数値 (半角) 入力。測定回数 3 回の結果を記入。 単位：mg/L。試料 1 L あたりの mg として記入。 下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字 3 桁で報告値を記入する。 検出下限値未満であった場合、ND と記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧 () をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字 1 桁で記入する。
Z-スコアの報告書資料編への記載	コンボボックスより選択
3 回の併行のために下記は 1～3 回で概略同様であり、1 回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3 回分を記入する。	
<分析方法等>	
試料受取日	数値 (半角) 入力。例：2020/7/28
分析開始月日	数値 (半角) 入力。例：2020/7/28
分析終了月日	数値 (半角) 入力。例：2020/7/28
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<総和法-硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析>	
試料希釈率	数値 (半角) 入力。
試料量 (mL)	数値 (半角) 入力。
蒸留方法	コンボボックスより選択。
蒸留フラスコ内液量 (mL)	数値 (半角) 入力。
アンモニア除去留出液量 (mL)	数値 (半角) 入力。
デバルタ合金の添加量 (g)	数値 (半角) 入力。
吸収液	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。

吸収液量(mL)	数値(半角)入力。
硝酸イオン・亜硝酸イオン留 出液量(mL)	数値(半角)入力。
留出液の定容量(mL)	数値(半角)入力。
留出液の分収量(mL)	数値(半角)入力。
フェノールとの反応温度(°C)	数値(半角)入力。
フェノールとの反応時間(分)	数値(半角)入力。
測定波長(nm)	数値(半角)入力。
<総和法-アンモニア性窒素及び有機性窒素の分析>	
試料希釈率	数値(半角)入力。
試料量(mL)	数値(半角)入力。
有機物分解時間(分)	数値(半角)入力。
蒸留方法	コンボボックスより選択。
蒸留フラスコ内液量(mL)	数値(半角)入力。
吸収液	数値(半角)入力。
吸収液量(mL)	数値(半角)入力。
硝酸イオン・亜硝酸イオン留 出液量(mL)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
留出液の定容量(mL)	数値(半角)入力。
留出液の分収量(mL)	数値(半角)入力。
発色方法	コンボボックスより選択。
発色試薬との反応温度(°C)	数値(半角)入力。
発色試薬との反応時間(分)	数値(半角)入力。
測定波長(nm)	数値(半角)入力。
試料希釈率	数値(半角)入力。
試料量(mL)	数値(半角)入力。
<紫外吸光光度法>	
試料希釈率	数値(半角)入力。
試料量(mL)	数値(半角)入力。
ペルオキシ二硫酸カリウムの アルカリ性溶液の添加量(mL)	数値(半角)入力。
分解瓶の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分解瓶の容量(mL)	数値(半角)入力。
加熱分解温度(°C)	数値(半角)入力。
加熱分解時間(分)	数値(半角)入力。
加熱分解後の試料の分収量 (mL)	数値(半角)入力。
加熱分解後の試料のpH調節	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
測定波長(nm)	数値(半角)入力。
<流れ分析法>	
試料希釈率	数値(半角)入力。
試料注入量(μL)	数値(半角)入力。
測定方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
測定装置メーカー	具体的に記入。
測定装置型式	具体的に記入。
還元効率の確認(%)	数値(半角)入力。
分解率の確認(%)	数値(半角)入力。
繰り返し回数(回)	数値(半角)入力。
繰り返し性CV(%)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
測定波長(nm)	数値(半角)入力。
<標準液>	
標準液メーカー名	具体的に記入。
使用時の濃度保証	コンボボックスより選択。
ファクター	数値(半角)入力。

Lot番号	数値（半角）入力。
<検量線（1）>	
検量線の点数	数値（半角）入力。
検量線の作成範囲（Nmg/L）	数値（半角）入力。
標準液濃度の表示	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
試料の指示値（平均）	数値（半角）入力。
空試験の指示値（平均）	数値（半角）入力。
検量線最高濃度指示値（平均）	数値（半角）入力。
分析方法の下限値(Nmg/L)	数値（半角）入力。
<検量線（2）>	
検量線の点数	数値（半角）入力。
検量線の作成範囲（Nmg/L）	数値（半角）入力。
標準液濃度の表示	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
試料の指示値（平均）	数値（半角）入力。
空試験の指示値（平均）	数値（半角）入力。
検量線最高濃度指示値（平均）	数値（半角）入力。
<試料の保存状況>	
保存状況 処理	保存方法等 試料の保存 保存時間 保存温度
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「行った」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：℃
計算式	200文字以内で簡潔に記入する。
	200文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。

4-4 分析結果報告書 [4]

表 4-4 模擬排水試料（亜硝酸性窒素）（分析結果報告書 [4]）

<分析担当者の経験等>	
分析の経験（PM2.5抽出液）	コンボボックスより選択。
分析の経験（環境水・地下水・排水）	コンボボックスより選択。
分析の経験（土壌）	コンボボックスより選択。
<分析結果>	
分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。 下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧（）をつけ JIS Z 8401によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。
Z-スコアの報告書資料編への記載	コンボボックスより選択
3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値については、平均を記入する。	
<分析方法等>	
試料受取日	数値(半角)入力。例：2020/7/28
分析開始月日	数値(半角)入力。例：2020/7/28
分析終了月日	数値(半角)入力。例：2020/7/28
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。

使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<ナフチルエチレンジアミン吸光度法>	
試料希釈率	数値（半角）入力。
試料量(mL)	数値（半角）入力。
発色試薬	コンボボックスより選択。
試料中酸化性物質の存在の確認	コンボボックスより選択。
測定波長(nm)	数値（半角）入力。
<イオンクロマトグラフ法>	
試料希釈倍率	数値（半角）入力。
試料注入量(μL)	数値（半角）入力。
イオンクロマトグラフメーカー	具体的に記入。
イオンクロマトグラフ型式	具体的に記入。
区分	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
再生液(サブレッサー用)	コンボボックスより選択。3.を選んだ場合には、具体的に記入。
検出器	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分離カラム名称	具体的に記入。
移動相	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
流量(mL/分)	数値（半角）入力。
カラム温度(°C)	数値（半角）入力。
<流れ分析法>	
試料希釈倍率	数値（半角）入力。
試料注入量(μL)	数値（半角）入力。
測定方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
測定装置メーカー	具体的に記入。
測定装置型式	具体的に記入。
繰り返し回数(回)	数値（半角）入力。
繰り返し性 CV(%)	数値（半角）入力。
測定波長(nm)	数値（半角）入力。
<標準液>	
標準液メーカー名	具体的に記入。
使用時の濃度保証	コンボボックスより選択。
ファクター	数値（半角）入力。
Lot 番号	数値（半角）入力。
<検量線>	
定量方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検量線の点数	数値（半角）入力。
内標準の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検量線の作成範囲(Nmg/L)	数値（半角）入力。
標準液濃度の表示	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
試料の指示値(対象物質)(平均)	数値（半角）入力。
試料の指示値(内標準物質)(平均)	数値（半角）入力。
空試験の指示値(平均)	数値（半角）入力。
検量線最高濃度指示値(平均)	数値（半角）入力。
分析方法検出下限値(Nmg/L)	数値（半角）入力。
<試料の保存状況>	
保存状況	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
保存方法等 試料の保存 処理	コンボボックスより選択。「行った」を選んだ場合には、具体的に記入。
保存時間	数値(半角)入力。単位：時間。
保存温度	数値(半角)入力。単位：°C
分析実施にあたっての留意した	200文字以内で簡潔に記入する。

点 及び問題と感じた点	
計算式	200 文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。

4-5 分析結果報告書 [5]

表 4-5 模擬排水試料（硝酸性窒素）（分析結果報告書 [5]）

<分析担当者の経験等>	
分析の経験（PM2.5 抽出液）	コンボボックスより選択。
分析の経験（環境水・地下水・排水）	コンボボックスより選択。
分析の経験（土壌）	コンボボックスより選択。
<分析結果>	
分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。 下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧（）をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。
Z-スコアの報告書資料編への記載	コンボボックスより選択
<亜硝酸性窒素と硝酸性窒素の合計値>	
亜硝酸性窒素と硝酸性窒素の合計値	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。 下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧（）をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。
<亜硝酸性窒素の濃度>	
亜硝酸性窒素の濃度	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。 下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧（）をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。
3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値については、平均を記入する。	
<分析方法等>	
試料受取日	数値(半角)入力。例：2020/7/28
分析開始月日	数値(半角)入力。例：2020/7/28
分析終了月日	数値(半角)入力。例：2020/7/28
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<還元蒸留-インドフェノール青吸光光度法>	
試料希釈率	数値（半角）入力。
試料量(mL)	数値（半角）入力。
蒸留方法	コンボボックスより選択。
蒸留フラスコ内液量(mL)	数値（半角）入力。

アンモニウムイオン除去留出液量 (mL)	数値 (半角) 入力。
デバルタ合金の添加量(g)	数値 (半角) 入力。
吸収液	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
吸収液量(mL)	数値 (半角) 入力。
硝酸イオン・亜硝酸イオン留出液量 (mL)	数値 (半角) 入力。
留出液の定容量(mL)	数値 (半角) 入力。
留出液の分収量(mL)	数値 (半角) 入力。
フェノールとの反応温度 (°C)	数値 (半角) 入力。
フェノールとの反応時間 (分)	数値 (半角) 入力。
測定波長 (nm)	数値 (半角) 入力。
<銅・カドミウムカラム還元-ナフチルエチレンジアミン吸光光度法>	
試料希釈率	数値 (半角) 入力。
試料量(mL)	数値 (半角) 入力。
塩化アンモニウム-アンモニア溶液の添加量(mL)	数値 (半角) 入力。
銅・カドミウムカラム充填剤	具体的に記入。
銅・カドミウムカラム充填剤のメーカー	具体的に記入。
還元効率の確認 (%)	数値 (半角) 入力。
還元後の流出液の分取量(mL)	数値 (半角) 入力。
測定波長 (nm)	数値 (半角) 入力。
<イオンクロマトグラフ法>	
試料希釈率 注)	数値 (半角) 入力。
試料注入量(μL)	数値 (半角) 入力。
イオンクロマトグラフメーカー	具体的に記入。
イオンクロマトグラム型式	具体的に記入。
区分	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
再生液 (サブレッサー用)	コンボボックスより選択。3. を選んだ場合には、具体的に記入。
検出器	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分離カラムの名称	具体的に記入。
移動相	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
流量 (mL/分)	数値 (半角) 入力。
カラム温度 (°C)	数値 (半角) 入力。
<流れ分析法>	
試料希釈率	数値 (半角) 入力。
試料注入量(μL)	数値 (半角) 入力。
測定方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
測定装置メーカー	具体的に記入。
測定装置型式	具体的に記入。
還元効率の確認 (%)	数値 (半角) 入力。
繰り返し回数(回)	数値 (半角) 入力。
繰り返し性 CV (%)	数値 (半角) 入力。
測定波長 (nm)	数値 (半角) 入力。
<標準液>	
標準液メーカー名	具体的に記入。
使用時の濃度保証	コンボボックスより選択。
ファクター	数値 (半角) 入力。
Lot 番号	数値 (半角) 入力。
<検量線>	
定量方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検量線の点数	数値 (半角) 入力。

内標準の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検量線の作成範囲 (Nmg/L)	数値 (半角) 入力。
試料の指示値 (対象物質) (平均)	数値 (半角) 入力。
試料の指示値 (内標準物質) (平均)	数値 (半角) 入力。
空試験の指示値 (平均)	数値 (半角) 入力。
検量線最高濃度指示値 (平均)	数値 (半角) 入力。
分析方法検出下限値 (Nmg/L)	数値 (半角) 入力。
< 試料の保存状況 >	
保存状況 処理	保存方法等 試料の保存 保存時間 保存温度
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	200 文字以内で簡潔に記入する。
計算式	200 文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料 (COD) を参照する。

4-6 分析結果報告書 [6]

表 4-6 模擬排水試料 (アンモニウム性窒素) (分析結果報告書 [6])

< 分析担当者の経験等 >	
分析の経験 (PM2.5 抽出液)	コンボボックスより選択。
分析の経験 (環境水・地下水・排水)	コンボボックスより選択。
分析の経験 (土壌)	コンボボックスより選択。
< 分析結果 >	
分析結果	数値 (半角) 入力。測定回数 3 回の結果を記入。 単位: mg/L。試料 1 L あたりの mg として記入。 下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字 3 桁で報告値を記入する。 検出下限値未満であった場合、ND と記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧 () をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字 1 桁で記入する。
Z-スコアの報告書資料編への記載	コンボボックスより選択
3 回の併行のために下記は 1 ~ 3 回で概略同様であり、1 回目を記入する。ただし、試料の指示値については、平均を記入する。	
< 分析方法等 >	
試料受取日	数値 (半角) 入力。例: 2020/7/28
分析開始月日	数値 (半角) 入力。例: 2020/7/28
分析終了月日	数値 (半角) 入力。例: 2020/7/28
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
< 蒸留法 (インドフェノール青吸光光度法、中和滴定法、サリチル酸-インドフェノール青吸光光度法、流れ分析法) >	
試料希釈率 注 1)	数値 (半角) 入力。
試料量 (mL)	数値 (半角) 入力。
蒸留フラスコ内の液量 (mL)	コンボボックスより選択。
吸収液 注 2)	数値 (半角) 入力。
吸収液量 (mL)	数値 (半角) 入力。

留出液の定容量(mL)	数値(半角)入力。
<インドフェノール青吸光光度法>	
留出液の分収量(mL)	数値(半角)入力。
ナトリウムフェノキシドとの反応温度(°C)	数値(半角)入力。
ナトリウムフェノキシドとの反応時間(分)	数値(半角)入力。
測定波長(nm)	数値(半角)入力。
<中和滴定法>	
留出液の分収量(mL)	数値(半角)入力。
滴定量(試料平均)(mL)	数値(半角)入力。
滴定量(空試験平均)(mL)	数値(半角)入力。
<サリチル酸-インドフェノール青吸光光度法>	
留出液の分収量(mL)	数値(半角)入力。
サリチル酸ナトリウムとの反応温度(°C)	数値(半角)入力。
サリチル酸ナトリウムとの反応時間(分)	数値(半角)入力。
測定波長(nm)	数値(半角)入力。
<イオンクロマトグラフ法>	
試料希釈率	数値(半角)入力。
試料注入量(μL)	数値(半角)入力。
イオンクロマトグラフメーカー	具体的に記入。
イオンクロマトグラフ型式	具体的に記入。
区分	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
再生液(サブレッサー用)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検出器	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分離カラムの名称	具体的に記入。
溶離液	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
18-クラウン-6の添加	コンボボックスより選択。
流量(mL/分)	数値(半角)入力。
カラム温度(°C)	数値(半角)入力。
<流れ分析法>	
試料希釈率	数値(半角)入力。
蒸留操作	コンボボックスより選択。
試料注入量(μL)	数値(半角)入力。
測定方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
測定装置メーカー	具体的に記入。
測定装置型式	具体的に記入。
繰り返し回数(回)	数値(半角)入力。
繰り返し性 CV(%)	数値(半角)入力。
測定波長(nm)	数値(半角)入力。
<標準液>	
標準液メーカー名	具体的に記入。
使用時の濃度保証	コンボボックスより選択。
ファクター	数値(半角)入力。
Lot 番号	数値(半角)入力。
<検量線>	
定量方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検量線の点数	数値(半角)入力。
内標準の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検量線の作成範囲(Nng/L)	数値(半角)入力。
試料の指示値(対象物質)(平均)	数値(半角)入力。

試料の指示値（内標準物質）（平均）	数値（半角）入力。
空試験の指示値（平均）	数値（半角）入力。
検量線最高濃度指示値（平均）	数値（半角）入力。
分析方法検出下限値(Nmg/L)	数値（半角）入力。
< 試料の保存状況 >	
保存状況 処理	保存方法等 試料の保存 保存時間 保存温度
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	200 文字以内で簡潔に記入する。
計算式	200 文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。

4-7 分析結果報告書 [7] ~ [10] (シマジン~フェニトロチオン)

模擬水質試料に関する分析結果報告書 [7] ~ [10] 共通の入力方法の詳細を記します。

模擬水質試料（シマジン~フェニトロチオン4項目共通）（分析結果報告書 [7] ~ [10]）

< 農薬分析の経験等 >	
環境水・地下水・土壌の農薬成分	コンボボックスより選択。
水道水の農薬成分	コンボボックスより選択。
食品の農薬成分	コンボボックスより選択。
< 分析結果 >	
分析結果	実施要領の希釈方法に従って、共通試料2を水で1000倍希釈して調製した分析用試料中の濃度(μg/L)を記入する。 測定回数分の分析結果を記入する。 JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告する。 下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧()をつけJIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。
Z-スコアの報告書資料編への記載	コンボボックスより選択。
< 分析用試料の作成 >	
希釈に使用した水	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
希釈方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
分取した共通試料2の量 (mL/検体)	数値(半角)入力
希釈倍率	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
< 分析方法等 >	
分析方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
試料受取日	数値(半角)入力
試料希釈日	数値(半角)入力
前処理開始日	数値(半角)入力
機器測定開始日	数値(半角)入力
分析終了日	数値(半角)入力
< 前処理 >	
抽出操作の有無	コンボボックスより選択。
試料量 (平均値) (mL)	数値(半角)入力。
試料からの抽出方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。

溶媒抽出	
塩化ナトリウム添加量(g/検体)	数値(半角)入力。
溶媒の種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
抽出回数(回)	数値(半角)入力。
溶媒量：抽出1回目(mL)	数値(半角)入力。
溶媒量：抽出2回目(mL)	数値(半角)入力。
溶媒量：抽出3回目(mL)	数値(半角)入力。
試験試料容器の洗込回数(回)	数値(半角)入力。
固相抽出	
固相の形状	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
充填剤の種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
コンディショニング方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
試料通液方法	コンボボックスより選択。
試料通液速度 (mL/min)	数値(半角)入力。
試験試料容器の洗いこみ	コンボボックスより選択。
洗いこみ溶媒	コンボボックスより選択。
洗いこみ回数	コンボボックスより選択。
試料通液した固相の洗浄	コンボボックスより選択。
洗浄溶媒	コンボボックスより選択。
洗浄溶媒量(mL)	数値(半角)入力。
固相の脱水・乾燥	コンボボックスより選択。
固相の脱水・乾燥方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
通液した固相の乾燥-遠心分離(分)	数値(半角)入力。
通液した固相の乾燥-通気(分)	数値(半角)入力。
溶出溶媒	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
溶出溶媒総量 (mL)	数値(半角)入力。
抽出液の脱水	コンボボックスより選択。
抽出液の脱水方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
クリーンアップ操作	コンボボックスより選択。
クリーンアップ方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
濃縮操作	コンボボックスより選択。
前処理後定容量 (最終検液量)(mL)	数値(半角)入力。
定容に用いた溶媒	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
<GC> (該当する場合に記入する)	
GC メーカー	具体的に記入。
検出器種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
GCカラム液相	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
GCカラム内径 (mm)	数値(半角)入力。
GCカラム長さ (m)	数値(半角)入力。
GCカラム膜厚 (μm)	数値(半角)入力。
昇温条件 注1) 初期温度	数値(半角)入力。
1 回目の昇温	数値(半角)入力。
2 回目の昇温	数値(半角)入力。
3 回目の昇温	数値(半角)入力。
4 回目の昇温	数値(半角)入力。
5 回以上の昇温の場合	数値(半角)入力。
昇温回数	数値(半角)入力。
注入量 (μL)	数値(半角)入力。
注入口温度($^{\circ}\text{C}$)	数値(半角)入力。
注入方式	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
キャリアーガス種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。

キャリアーガス制御モード	コンボボックスより選択。
キャリアーガス流量 (mL/min))	数値(半角)入力。
<GC/MS(/MS)>該当する場合に記入する)	
GCメーカー	具体的に記入。
MSメーカー	具体的に記入。
MS装置型式	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
MSイオン化法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
MSイオン検出法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
GCカラム液相	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
GCカラム内径 (mm)	数値(半角)入力。
GCカラム長さ (m)	数値(半角)入力。
GCカラム膜厚 (μm)	数値(半角)入力。
昇温条件 初期温度	数値(半角)入力。
1回目の昇温	数値(半角)入力。
2回目の昇温	数値(半角)入力。
3回目の昇温	数値(半角)入力。
4回目の昇温	数値(半角)入力。
5回以上の昇温の場合 昇温回数	数値(半角)入力。 数値(半角)入力。
注入量 (μL)	数値(半角)入力。
注入口温度($^{\circ}\text{C}$)	数値(半角)入力。
注入方式	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
キャリアーガス種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
キャリアーガス制御モード	コンボボックスより選択。
キャリアーガス流量 (mL/min)	数値(半角)入力。
定量用イオン(m/z)	値(半角)入力。 MS/MS を用いた場合は、「289>91」の様に記入する。
確認用イオン(1) (m/z)	値(半角)入力。 MS/MS を用いた場合は、「289>91」の様に記入する。
確認用イオン(2) (m/z)	値(半角)入力。 MS/MS を用いた場合は、「289>91」の様に記入する。
<LC/MS(/MS)> (該当する場合)に記入する)	
LCメーカー	具体的に記入。
MSメーカー	具体的に記入。
MS装置型式 注1)	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
MSイオン化法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
MSイオン検出法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
分離カラムタイプ	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
分離カラム基材	コンボボックスより選択。
分離カラム充填剤官能基	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
分離カラム内径 (mm)	数値(半角)入力。
分離カラム長さ (mm)	数値(半角)入力。
分離カラム粒子径 (μm)	数値(半角)入力。
ガードカラム	コンボボックスより選択。
カラム温度 ($^{\circ}\text{C}$)	数値(半角)入力。
移動相A液	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
移動相B液	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
移動相混合条件	コンボボックスより選択。
移動相混合比率	数値(半角)入力。
移動相流速 (mL/min)	数値(半角)入力。
注入量 (μL)	数値(半角)入力。
定量用イオン(m/z)	値(半角)入力。 MS/MS を用いた場合は、「289>91」の様に記入する。
確認用イオン(1) (m/z)	値(半角)入力。 MS/MS を用いた場合は、「289>91」の様に記入する。
確認用イオン(2) (m/z)	値(半角)入力。 MS/MS を用いた場合は、「289>91」の様に記入する。
<標準液の作成>	
標準原液	
調製方法	コンボボックスより選択。

%B

原液・原体メーカー名	具体的に記入。
使用時の濃度保証	コンボボックスより選択。
調製溶媒	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
調製・購入からの経過月(月)	数値(半角)入力。
検量線作成用標準液	
調製方法	コンボボックスより選択。
含まれる農薬の種類	数値(半角)入力。
調製溶媒	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
調製からの経過日(日)	数値(半角)入力。
サロゲート内標準液	
サロゲート内標準物質	コンボボックスより選択。
サロゲート内標準物質名	具体的に記入。
調製方法	コンボボックスより選択。
サロゲート内標準物質メーカー名	具体的に記入。
調製濃度($\mu\text{g/L}$)	数値(半角)入力。
調製溶媒	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
調製・購入からの経過日(日)	数値(半角)入力。
内標準液	
内標準物質	コンボボックスより選択。
内標準物質名	具体的に記入。
調製方法	コンボボックスより選択。
内標準物質メーカー名	具体的に記入。
調製濃度($\mu\text{g/L}$)	数値(半角)入力。
調製溶媒	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
調製・購入からの経過日(日)	数値(半角)入力。
<検出下限値及び定量下限値>	
装置検出下限値の算出	コンボボックスより選択。
装置検出下限値 ($\mu\text{g/L}$)	数値(半角)入力。
装置検出下限値算出方法	コンボボックスより選択。()は数値(半角)入力。「その他」を選択した場合は()に具体的に記入
装置検出下限値の試料換算値($\mu\text{g/L}$)	数値(半角)入力。
分析法検出下限値の算出	コンボボックスより選択。
分析法検出下限値 ($\mu\text{g/L}$)	数値(半角)入力。
分析法検出下限値算出方法	コンボボックスより選択。()は数値(半角)入力。「その他」を選択した場合は()に具体的に記入
分析法定量下限値の算出	コンボボックスより選択。
分析法定量下限値 ($\mu\text{g/L}$)	数値(半角)入力。
分析法定量下限値算出方法	コンボボックスより選択。()は数値(半角)入力。「その他」を選択した場合は()に具体的に記入
<検量線の作成>	
定量方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
指示値	
指示値の種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
試料	数値(半角)入力。
空試験	数値(半角)入力。
検量線最低濃度	数値(半角)入力。
検量線最高濃度	数値(半角)入力。
サロゲート内標準 注1)	数値(半角)入力。
内標準 注1)	数値(半角)入力。
サロゲート内標準の平均回収率	数値(半角)入力。

(%)	
検量線	
種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
切片	コンボボックスより選択。
点数(点)	数値(半角)入力。
最低濃度($\mu\text{g/L}$)	数値(半角)入力。
最高濃度($\mu\text{g/L}$)	数値(半角)入力。
濃度計算に用いた式	試料指示値: R_s 、内標準物質指示値: R_{is} 、サロゲート内標準指示値: $R_{surrogate}$ 、ブランク試料の指示値: R_{blank} 、供試試料量 V_{sample} (mL)、最終検体量: V_{final} (mL)、一次検量線の傾き: a_1 、検量線の切片: b_1 、二次検量線の二次係数: a_2 、一次係数: b_2 、切片: c_2 の記号を使用する。
<試料の保存>	
共通試料保存方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
希釈試料保存方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	200文字以内で簡潔に記入する。
添付クロマトグラムのファイル名	
検量線データ	具体的に記入。
操作ブランクデータ	具体的に記入。
共通試料データ	具体的に記入。
精度管理用データ	具体的に記入。

4-8 分析結果報告書 [11] (その他の農薬)

模擬水質試料に関する分析結果報告書 [11] の入力方法の詳細を記します。

模擬水質試料 (その他の農薬) (分析結果報告書 [11])

<分析結果:参照項目>	
分析結果	実施要領の希釈方法に従って、共通試料2を水で1000倍希釈して調製した分析用試料中の濃度($\mu\text{g/L}$)を記入する。 測定回数分の分析結果を記入する。 JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告する。 下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧()をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。
<Z-スコアの報告書資料編への記載>	
Z-スコアの報告書資料編への記載	コンボボックスより選択。
<分析の種類等:参照項目>	
分析方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
用いたシステム	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
<定量用イオン及び確認用イオン>	
定量用イオン(m/z)	値(半角)入力。MS/MSを用いた場合は、「289>91」の様に記入する。
確認用イオン(1) (m/z)	値(半角)入力。MS/MSを用いた場合は、「289>91」の様に記入する。
確認用イオン(2) (m/z)	値(半角)入力。MS/MSを用いた場合は、「289>91」の様に記入する。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	200文字以内で簡潔に記入する。

4-9 分析結果報告書 [12] ~ [16] (ニッケル~アルミニウム)

模擬大気試料 (PM2.5の模擬分解液) に関する分析結果報告書 [12] ~ [16] 共通の入力方法の詳細を記します。

模擬大気試料（PM2.5の模擬分解液）（ニッケル～アルミニウム5項目共通）（分析結果報告書 [12] ～ [16] ）

＜分析担当者の経験等＞	
分析の経験（PM2.5抽出液）	コンボボックスより選択。
分析の経験（環境水・地下水・排水）	コンボボックスより選択。
分析の経験（土壌）	コンボボックスより選択。
＜分析結果＞	
分析結果	数値（半角）入力。 測定回数分の分析結果を記入する。 単位：ng/mL。試料1mLあたりのngとして記入。 下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧（）をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。
Z-スコアの報告書資料編への記載	コンボボックスより選択。
＜分析方法等＞	
試料受取日	数値（半角）入力。例：2020/7/28
分析開始月日	数値（半角）入力。例：2020/7/28
分析終了月日	数値（半角）入力。例：2020/7/28
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
＜ICP質量分析法-1＞	
ろ過等の操作	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
試料希釈率	数値（半角）入力。
ICP質量分析装置 メーカー	具体的に記入。
使用年数 (年)	数値（半角）入力。
質量分析計	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
スペクトル干渉の低減または補正	
コリジョン・リアクションセル	コンボボックスより選択。
1.行う場合 使用ガス	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
1.行う場合 使用ガス 流量(mL/分)	数値（半角）入力。
補正式による補正	コンボボックスより選択。
その他	コンボボックスより選択。「行う」を選んだ場合には、具体的に記入。
超音波ネブライザーの使用	コンボボックスより選択。
スプレーチャンバーの材質	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
装置のメモリー(バックグラウンド)低減対策	コンボボックスより選択。
装置メモリー低減方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
使用する洗浄液の種類	具体的に記入。
＜ICP質量分析法-2＞	
セリウムまたはバリウムによる酸化物イオン生成比 (%)	数値（半角）入力。
酸化物イオン生成比の確認に	コンボボックスより選択。

用いたイオン	
内標準の添加方法	コンボボックスより選択。
オートサンプラの使用における洗浄液の交換頻度 (注)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
ポンプチューブの交換頻度 (注)	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
積分時間 (質量数毎) (秒)	数値 (半角) 入力。
質量数	数値 (半角) 入力。
< 標準物質 >	
標準原液	
調製方法	コンボボックスより選択。
メーカー名	具体的に記入。
純度・規格	具体的に記入。
濃度 (mg/L)	数値 (半角) 入力。
調製・購入からの経過月 (月)	数値 (半角) 入力。
検量線標準液調製からの経過日 (日)	数値 (半角) 入力。
< 検量線の作成等 >	
定量方法	コンボボックスより選択。
検量線の点数	数値 (半角) 入力。
検量線の作成範囲 (ng/mL)	数値 (半角) 入力。
内標準の種類	具体的に記入。
内標準質量数	数値 (半角) 入力。
試料の指示値 (対象物質) (平均)	具体的に記入。
試料の指示値 (内標準物質) (平均)	具体的に記入。
空試験の指示値 (平均)	具体的に記入。
検量線最高濃度指示値 (平均)	具体的に記入。
装置検出下限値 (IDL) (ng/mL)	具体的に記入。
IDL の算出方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分析法検出下限値 (MDL) (ng/mL)	数値 (半角) 入力
MDL の算出方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
< 試料の保存状況 >	
保存状況 処理	保存方法等 試料の保存 保存時間 保存温度
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	200 文字以内で簡潔に記入する。
計算式	200 文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料 (COD) を参照する。

4-10 分析結果報告書 [17] (その他無機元素)

模擬大気試料 (PM2.5の模擬分解液) に関する分析結果報告書 [17] の入力方法の詳細を記します。

模擬大気試料 (PM2.5の模擬分解液) (その他無機元素) (分析結果報告書 [17])

< 分析結果: 参照項目 >	
分析結果	測定回数分の分析結果を記入する。

	<p>測定回数分の分析結果を記入する。 JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字 3 桁で報告する。 下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字 3 桁で報告値を記入する。 検出下限値未満であった場合、ND と記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧 () をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字 1 桁で記入する。</p>
<Z-スコアの報告書資料編への記載>	
Z-スコアの報告書資料編への記載	コンボボックスより選択。
<分析の種類等：参照項目>	
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<質量数>	
質量数	値(半角)入力。